

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和7年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校 校長 森本 裕美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 藤本洋美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田 尚子
委員	各学部長 主幹教諭 指導教諭・研究課長 人権進路課長 教務主任	福原薫 宮本洋子 谷口夏紀 森浩一 山田千代 二宮智子 片寄恭代 高木奈緒子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よさ	安心感のある学校生活の中で生活リズムを整え、学習や経験を深めることで、興味関心があることや楽しいことに意欲的に活動できる。保護者や関係機関の支援を受け、自立活動を主とする教育課程で健康と安全に留意しながら学習に取り組んでいる。	課題 支援を受けることが多く、受け身になりやすい。生活全般での制限も多く、環境の変化や身の回りの状況を受け止めたり自分の気持ちを表出したりすることに難しさがある。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
教員の丁寧なフィードバックにより、児童の意図的な発信が増える。授業中、視線や表情、身体の動きで意思を伝えようとする場面が増える。	全児童の学習場面での表出の様子や状況を記録し、教員集団で共有・確認する。	授業中、児童の意図的な発信を確認できる機会が増え、教員だけでなく保護者とも共有できた。
		評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①外部専門家等との協議でより客観的に実態把握をするとともに、コミュニケーション方法の発達の変化についての知識を深める。 ②児童の快不快等の表出方法について、ケース会や学部会で共通理解を図り、児童一人一人の表出を複数の目で確認し記録するとともに教育的環境を整える。 * 中間期の見直し	担任・担当する児童の表出について、可視化できる記録を用いて、ケース会や学部会で3回以上共有する。	各学級で、個々の児童の実態に合わせた記録用紙を作成・活用し、担任や授業担当でケース会や学部会で共有した。
達成状況を踏まえた改善事項		
小学部段階は心身共に成長・発達する時期であり、できたことをしなくなったり、負の言動が見られることもある。成長の一端として理解・共有する必要もある。複数の担任を中心に児童の表出を確認することで、整合性がとれる。記録は、教員間で、記入量や内容について簡単に負担なく共有できるツールを模索する必要がある。		

